

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営上の方針を目に付く所に貼っている。入居者さんの権利を大切に、地域の中で暮らし続けることが出来るよう「やわらかな空間の中で、一人ひとりの思いを大切に愛情豊かな援助を心がけます」独自の理念があります。	○  改善すべき所は、朝の申し送り、会議等で、話し合いを行っている。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目標を日々話し合い理念の実践に取り組んでいる。	○  朝、夕の申し送り時に、職員全員で声を出し理念を述べ、個々に自覚して取り組めるよう努めたい。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの見やすい所に掲示している。毎月家族への便りを出し、家族、地域の人々にもわかりやすく説明できている。	○
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の小学校、中学校の運動会への参加。近所の方々への施設主催の夏祭り等に参加していただいたり、行事等へのボランティアへの参加、交流に努めている。	○  年2回ぐらいでも、地域清掃を行ったりして、地域の方に、グループホームに興味を示してもらい、ボランティアの参加しやすい環境を作りたい。地域の老人会、保育所との交流を深め互いの行事への参加。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘を受けた所は、会議等で意見を出し合い改善に取り組んでいる。	○	評価を客観的に受け止め、職員全体の意識付けに取り組んでいる。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前期の外部評価の公表、利用者への取り組みを話し合ったり、意見をサービスに活かしている。		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	グループホームが地域に何か還元できるように積極的に働きかけホームの向上を目指す。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		○	月1回の勉強会や研修を行い、職員のスキルアップに努めたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会の受講、全職員に学ぶ機会を持ち特に事業所内での防止努めている。入浴の際の全身観察、研修後の復命会をとうして職員の虐待に関する意識を高めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約する際、きちんと説明を行い、家族の同意を得ている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	座談会を開き、利用者の意見、要望を聞き入れ、より充実した毎日が送れるよう努めている。	○  個別に会話できる場を設け、利用者の意見（趣味、嗜好）不満、苦情、聞き入れ運営に反映させていきたい。
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	来訪時または、電話にて日常生活および金銭の報告確認を行っている。	○  便り等にて、職員の紹介等も行っていきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、ほとんど利用されていない。家族からの要望は、支援に反映させている。苦情の合った場合は職員で対策を話し合う。	○
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の全体会議、ユニット会議で意見や提案を出す機会を設けている。	○  管理者が個別のカンファレンスを行う。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員個々の要望を十分に聞き入れ、勤務体制の調整を行っている。利用者の状況に合わせ柔軟に対応が取れるような体制作りをしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成体制があり、資格取得支援も行っている。研修終了後の復命会による内容の共有により全職員が前向きに取り組める体制を取っている。	○	他、グループホームでのつき回の勉強会等を行い個々のスキルアップにつなげたい。
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は行なわれていない。	○	他、施設との意見交換や情報交換を行いサービス向上に役立てたい。
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	現在は行なわれていない。	○	親睦会等を行い互いの意見を話したり、管理者による個別のカンファレンスを行ってほしい。
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格所得への支援体制がある。各種講習にも全員参加できるよう配慮している。	○	企画運営会議等の話し合いが、行われているがもう少し前向きに取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時から、利用者の不安などに傾聴し、話しやすいよう配慮している。管理者が自宅を訪問し面談を行い、本人の要望、悩みを聞く環境を作っている。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人の行動や言動を注意深く見させていただき、必要とするサービスを見極めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に体験入所や見学、他入居者とのふれあいを持っていただき、馴染める環境を提供している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや掃除などの日常生活の中で、喜びや達成感を一緒に味わったり、おやつ作りなどで、職員が教わることもある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時本人の気持ちをお伝えるも、一緒に外出したり、行事参加したりなど、積極的には行えていない。	○	家族参加行事、畑作りや庭造り等を行い、家族とともに支えあえる環境を作っていきたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の介護負担を私達が軽減することにより、入居者と家族の精神的なつながりを、深める努力をしていきたい。	○	
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等が気軽に来訪できる環境づくりをしていきたい。	○	
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の会話にも職員が気を配りながら仲間作りの支援をもっとしていきたい。利用者同士で楽しめる空間、環境作りを積極的に行っていきたい。	○	
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院した場合、見舞いがてら訪ねたり本人、家族の相談には親身に対応している。退去された家族の相談事にも応じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の体調や気分に合わせて、本人の思いに沿う、本人を中心とした生活リズムであるよう常に職員同士で話し合いを行っている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に入居以前の状況を聞き取り、今後の生活に繋げるように日々配慮している。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	自然に個々が無理のない共同生活が送れるように努め配慮している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に、本人、家族との話し合いを元に職員の意見を取り入れたプランを作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の気づき、意見を取り入れ、問題点、支援方法の話し合いを行っている。最長6ヶ月でプラン見直しを行い、状況変化によりすぐにプラン見直しをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録をスタッフ全員が目を通し、共有している。それについて意見を出し介護計画に、活かしている。	○	さらに植栽に変化等を話し合い、日々見直しを行っていききたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状況、家族の要望に応じて、関連事業所を利用されるよう支援していききたい。	○	各分野との連携を図り、多様なサービスで、支援できるようにしていききたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティアの募集、協力が得られるよう働きかけを行っている。消防の避難訓練を年2回行っている。	○	多方面からの協力が得られるよう、地域にもっと働きかけをしていききたい。
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	強力医療機関、本人の希望する病院へ往診すること等。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望する医療が受けられるよう、支援している。状況に変化があった場合は、掛かりつけの医療機関に連絡をとり対応している。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	各、利用者の主治医に相談しながら、診断、治療を受けている。	○	認知症に詳しい医師との連携をしていきたい。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設内では看護師が不足している。地域の看護師との連携はほとんど取れていない。	○	今後地域の看護師との連携を図れるよう、信頼関係を気づいていきたい。
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と相談しながら、家族の希望に沿った対応をしている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた取り組みは今後、職員全員での話し合いや健闘が必要。	○	終末期に向けた取り組みは、今後、家族、医療機関との話し合い、取り組みが必要。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期に向けた取り組み、準備には至っていない。		利用者の日常の変化、体調などを常に家族との連絡、報告を取り合う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>今までの生活のあり方を考慮し、支援していくことと、馴染みのある写真、家具等を持って来て頂き、安心して生活できるよう、努めている。</p>		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者のプライバシーを配慮し、個人的な話がある場合は、居室内で話をしたりして対応している。記録物は所定の場所に保管している。</p>		
<p>48</p> <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>毎日、少しの時間でも全員の入居者に声をかけ、訴え等の聞き取りを行い要望似応えられるように、努力している。</p>		
<p>49</p> <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床、食事、入浴等、本人の希望に沿って行っているつもりだが、基本的には計画に沿って行っている。</p>	○	<p>一緒にゆったりと過ごしていけるよう配慮していきたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>美容師の資格を持った職員がメインに対応し、その他は希望があれば、近くの美容室に出かけたりしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分の慣れたしんだ食器や湯のみ箸など使用している方、又自分での摂取促している。昼食時は職員も一緒に食事をし、食器の片づけや洗い物は入居者の方が進んで手伝ってくれる。	○	家庭的な食事ができるよう、大皿からとりわけて、食を楽しむ工夫もして行きたい。
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が希望する場合、職員が買い物へ行き購入している。週に一度外部からパンや飲み物を販売にきてくれている。入居者の方に好評である。		
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、定期的なトイレ誘導を心がけているが、すべてを把握できずに、失禁などの失敗がある。失禁の対応にはプライバシーに配慮していききたい。トイレへの声かけはさりげなくおこない自尊心を傷つけないよう配慮していききたい。	○	リハビリパンツを着用している方が下着使用のいなるようレベルアップをはかっていきたい。
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一人一人入っていただいて、リラックスしていただいている。入居者の希望をなるべく聞き入れ、気持ちのよい時間を過ごせるよう対応している。	○	近くに温泉があるので時間を作り、大浴場を利用する機会を作りリフレッシュしていただく。
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なかなか寝付けない入居者の方には、話を聞いて、不安を取り除き、安心して入眠できる努力をしている。入眠がうまくできず、訴え続ける入居者の方には眠剤を使用しています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	体を動かす事の好きな一部の入居者は、自発的に、掃除等軽作業を手伝ってくれている。その他に入居者は毎日特に何もせず過ごしている。	○	アクティビティに力を入れ、張りのある毎日を送ってもらおうよう努力していききたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る入居者の方には希望時、お小遣いとして渡している。ほとんどの方は施設側で管理している。(金銭出納長にて)ご家族の方に1ヶ月の領収書をまとめ、発送している。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭先、散歩、買い物等外に出る機会を設けているがおもうように支援できていない。	○	ドライブ、地域ボランティア等も含め、外出機会を増やしていきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	墓参り等、家族の支援にたよっている。ほとんど出来ていない。今年は、1泊旅行を計画している。	○	本人の希望に添えるよう、支援していきたい。
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援できている。	○	今後、絵手紙作成、家族や友人へ届けたい。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来やすい雰囲気作りを心がけているが、今以上に外部からの訪問者の方々得への対応を見つめ直していきたい。ホーム内の雰囲気を明るく笑顔あふれる所にし居心地の良い場にしていきたい。		職員全体が元気に明るく訪問者への対応をしていきたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で取り組んでいるが、やむを得ず行う場合は家族に説明し同意を得ている。拘束のないケアは心がけている。	○	拘束する前に、しなくてもよい方法を考える。拘束をなくす。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかけず、誰か出入りした場合ブザーが鳴るようになっている。各棟の扉には鈴がついている。入居者が外に出ようとした時はさりげなく、職員も外に出るようにしている。	○	徘徊者には目配り強化している。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげなく目配りし把握し、些細なことでも声かけし配慮している。所在確認の徹底。	○	その場を離れるときは職員同士声を掛け合っていきたい。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は鍵のかかる場所、包丁などは夜間、目の届かない所、シャンプー、ボディソープ、洗濯洗剤等すべて、鍵がかかる目の届かない場所に保管している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット等の報告書を提出しているが、みんな人ごとのように印を押し、終わっている感じがする。対策は話し合っているがもう少し危機感を持って対策を話し合っていきたい。	○	今後、小さな事故ゼロにするために対策を考えていきたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、応急手当の訓練を行ったが今後、定期的に勉強会を行い職員全員すぐ働けるようにすることが必要。	○	職員全員が熟知できるようにする。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練（日中のみ）今後、地域の人々との合同の避難訓練、協力体制が必要。	○	地域の人々の協力を得られるよう、地域との交流が必要。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の状況の変化の度、連絡を取り説明している。過しやすい自由な生活が出来るよう対応策をケア会議等で話し合っている。	○	
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日決った時間にバイタルチェックを行いその際言動、顔色の観察をしている。以上があった場合は看護師に報告する。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更があった場合は、職員全体に伝わるよう日誌、受診記録に記入し、出勤しているスタッフには口頭にて伝える。	○	薬の目的、副作用については全員が個々に勉強していく必要がある。
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を促すように、牛乳やヤクルトの摂取を毎日行っている。体操も毎日行い、便秘がちな入居者の方には排便（一）日数により、下剤を使用している。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔内洗浄や入歯の手入れを行っている。自分で行う方は最後に職員がチェックしている。	○	舌磨きを全入居者に促して行きたい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすいようにご飯をやわらかめに炊いたり、個々に合わせた大きさ、やわらかさにしています。水分補給は状態に応じ、促しています。	○	食べやすいように工夫しバランスのよい食事を全員が完食するような物を提供していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	職員、外部からの訪問者は、ホームに入った後すぐうがい、手洗いの徹底を行っています。入居者も外から帰ってきた場合同じ。感染予防マニュアルを作成し全職員が把握している。入居者職員全員、インフルエンザの予防接種を行っている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の掃除、食器やまな板の消毒、週2回の冷蔵庫の消毒を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、玄関先はいつも掃除が行き届き、訪問された方は気持ちが良いと思います。入居者の方も掃除を手伝ってくれています。ホーム前の花壇、鉢に花を置くなどひたしめやすい環境造りが出来ている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が一人になりたい時は、居室へ戻りゆっくりされたり、入居者同士が楽しめる、空間をホールに確保している。壁にも季節の装飾をして彩り豊か。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテレビ前にソファを置き利用者同士、会話を楽しみながらくつろげる空間作りをしている。	○	状況を見ながら定期的にホール内の家具の移動をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れた身の回りの品の持ち込み、行事の際の 写真を貼ったりしている。希望に合わせ床に畳を 敷きその人の生活スタイルに合わせた工夫をして いる。	○	写真や手作りの品を居室全体に飾り付けたい。
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	掃除の際は必ず換気を行い、空気の循環をしてい る。1日を通し過ごしやすい温度、湿度設定を心 がけている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホール内、居室の要所への手すりの設置、床暖 房、滑りそうな場所への滑り止めを設置してい る。	○	日常生活の中で生活リハビリ（掃除等）を行って 行きたい。
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している		○	一人ひとりのわかる力を活かし職員が理解でき るよう努めていきたい。自立支援の配慮をしてい きたい。
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている		○	畑があるので、入居者と野菜を収穫したりして楽 しみを共感したい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

年間行事を40弱行い、入居者の方々の気分転換、リフレッシュになるように努力し取り組んでいる。ホール、居室内をいつも清潔に保ち、過しやすい空間作りに取り組んでいる。入居者の方々の意見や要望に耳を傾け、1日最低10～20分は1人ひとりとの会話の場を設ける努力をしている。